

行動する

屋外で地震が起こつたら

災害は時と場所を選ばず、忘れた頃にやってきます。外出中に地震が発生した場合の対処法を覚えておきましょう。

移動中



●駅のホームにいるとき

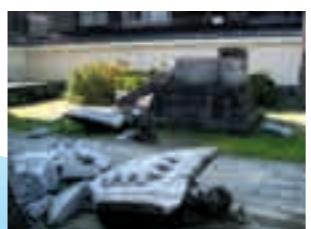
- ・線路上に落ちないように気をつける。
- ・駅員の指示にしたがって避難する。

●自動車を運転しているとき

- ・自動車を止めときは急ブレーキを避け、道路の左側に停車する。
- ・カーラジオで地震情報を聞き、規制にしたがって行動する。
- ・自動車を離れるときはキーを付けたままエンジンを止め、ドアは施錠しない。

●電車やバスに乗っているとき

- ・立っているときは吊革や手すりにつかり、体が放り出されないようにする。
- ・座っているときは体を前かがみにして足をふんばる。
- ・急停車に注意し、乗務員の指示にしたがって避難する。



帰宅困難者の心得

■普段の備え

- ①家族防災会議で、連絡手段、集合場所を話し合う。
- ②徒歩での帰宅ルートを確認。
- ③連絡手段や帰宅ルートについてはできれば複数考えておく。
- ④携帯ラジオ、防寒用品、運動靴や飴等の簡易食料を備えておく。

■発災時

- ①あわてずに正確な情報入手。
- ②災害時帰宅支援ステーションを利用する。
- ③声を掛け合い、助け合う。
- ④安否確認は、NTT災害用伝言ダイヤル171を利用する。



遠距離へ通勤、通学をしている人は、交通規制などで帰宅が困難になる場合があります。「自らの身の安全は自ら守る」を基本とし、平常時から十分な備えを行い、発災時には身の安全を確保しながら帰宅しよう。



街中・避難時



●避難は徒歩で、最小限の荷物を持って

- ・緊急出動の妨げにもなる車での移動はやめて、徒歩で避難する。



●協力し合って応援救護

- ・お年寄りや小さな子ども、身体の不自由な人を優先する。
- ・地域のみんなで協力し合って救出救護活動を行う。

●街中を歩いているとき

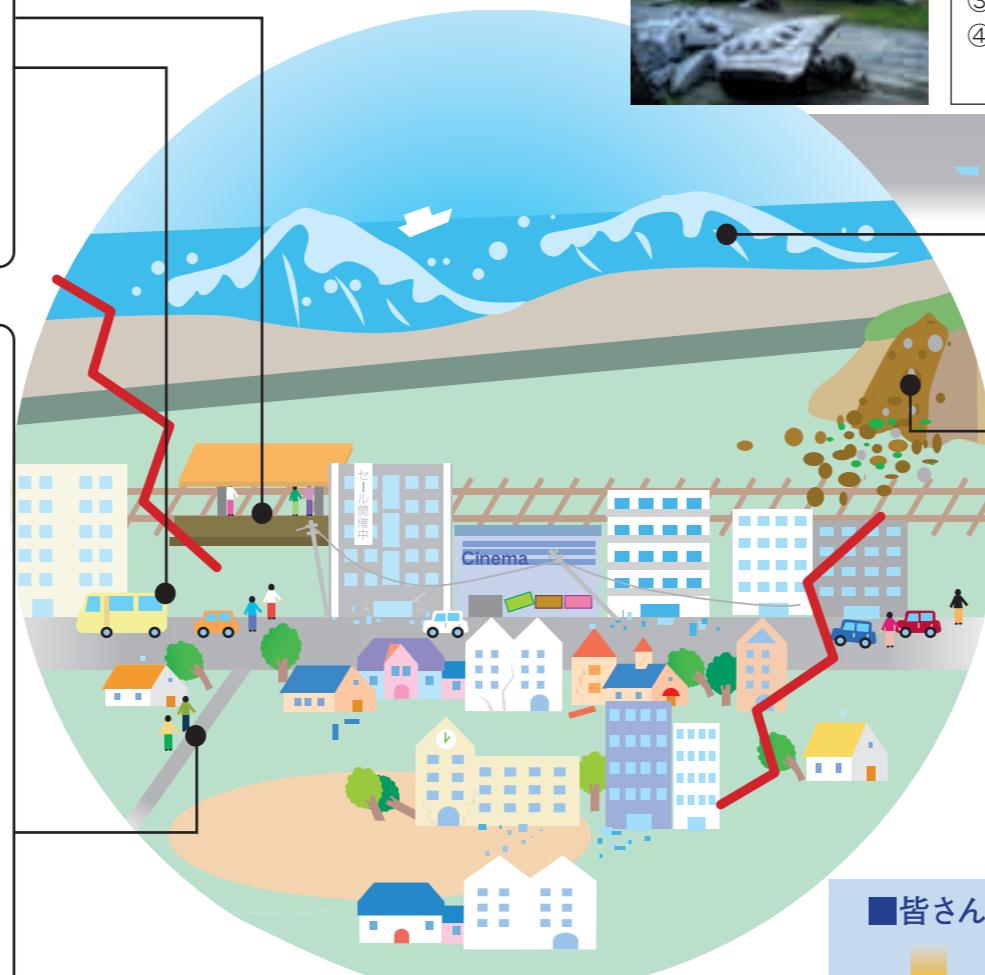
- ・プロック塀や自動販売機、電柱などは倒れがあるので注意する。
- ・走行中の車に注意しながら、できるだけ広い場所へ避難する。
- ・切れて垂れ下がった電線は危険なので近づかない。

地盤の液状化現象

液状化とは、地震によって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象のこと。埋立地や河口など水分をたくさん含んだ砂質の地盤で発生する現象で、地盤の上の建物を傾かせたり沈ませたりします。

予想される被害

- ・建物倒壊、道路の寸断、水道管やガス管など
 - ・ライフラインの破壊など
- ※構造物の基礎である地盤が破壊されるため被害は大きい。



海辺・川・がけ地・急傾斜地



●海辺・川にいるとき

- ・地震を感じたら警報を待たず、すぐに高台などの安全な場所に避難する。
- ・地震を感じなくても「津波警報・注意報」が発表されたら避難する。
- ・津波は河川をさかのぼるので、川から離れて避難する。

■皆さんのまちで発令される「避難勧告」と「避難指示」

「避難準備情報」とは!?

人的被害が発生する恐れがある場合に発令されます。自らの避難準備とともに「災害時要援護者(参照16ページ)」の避難支援を開始してください。



「避難勧告」とは!?

土地、建物などに被害が発生する恐れのある場合に、その地域の皆さんに対して行われる勧告です。



「避難指示」とは!?

避難勧告よりも緊急性が高い場合に発令されます。事実上の避難命令に等しいものです。

